

## 一宮市男女共同参画推進懇話会会議録（概要）

会 議 名	第 3 回会議録
開 催 日 時	平成 21 年 11 月 17 日（火）9：30～11：30
開 催 場 所	一宮庁舎 2 階 大会議室
出席委員氏名	岩田委員、岡西委員、亀垣委員、木村委員、倉兼委員、 子安委員、佐々木委員、佐藤委員、渋谷委員、瀧委員、 津田委員、中村委員、森委員、八木委員 <span style="float: right;">計 14 名</span>
欠席委員氏名	土屋委員 <span style="float: right;">計 1 名</span>
出席した市職員	企画部長、次長、企画政策課長、同副主監 1 名、同主査 2 名、 同主任 1 名 <span style="float: right;">計 7 名</span>
会 議 事 項	1. 市民憲章唱和 2. 部長あいさつ 3. 議題 ① 男女共同参画に関する市民アンケート結果について ② 市民ワークショップについて ③ 起草部会について
<b>会 議 内 容</b>	
企画部長	<u>市民憲章唱和</u> <span style="float: right;">（市民憲章唱和）</span> <u>あいさつ</u> <span style="float: right;">（部長あいさつ）</span>
事務局（企画政策課長）	<u>議題①男女共同参画に関する市民アンケート結果について</u> それでは、ここからの進行は、会長の佐々木先生にお願いします。
会長	それでは、議題に入らせていただきます。お手元の次第にございますように、議題①男女共同参画に関する市民アンケート結果について事務局より報告願います。
事務局（企画政策課副主監）	＜資料に基づき説明（アンケート調査概要 P1～P21）＞

<p>会長</p>	<p>事務局からアンケート結果について報告がありました。ご意見・ご質問等ございましたら、いただきたいと思います。</p>
<p>子安委員</p>	<p>P21の「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術の習得など積極的に力の向上を図る」項目の20歳代、30歳代の比率が低いというのは、若い世代では、学歴も高いし、ひとりで自立できるので必要を感じないから、比率が低いという解釈になるのでしょうか。</p>
<p>事務局（企画政策課副主監）</p>	<p>比較の問題でいけばそうだと思いますが、必要性が高いものを選ぶ質問ですので、「慣習やしきたり」などの項目の方が優先順位が高かったということになります。</p>
<p>岩田委員</p>	<p>一宮市の前回の調査よりは、随分、「平等」という回答が増えているようですが、全国調査よりは、差が開いているように思います。都市部とか男女共同参画が進んでいるというようなデータとか、傾向はあるんですか。</p>
<p>事務局（企画政策課副主監）</p>	<p>愛知県全体で言えることですが、全国的に見ると、やや保守的な傾向にあると思われます。</p>
<p>津田委員</p>	<p>アンケートを作る際に、「社会的通年、しきたり」の具体的な内容について、はっきり示すべきだったと思います。自由意見のほうで何かでていましたか。また、じっくり読んでみたいと思います。</p> <p>最近の若い世代では、学歴が非常に高い状況にあると思いますが、「就職の際の差別」の項目がありませんでしたので、そういった部分が「社会通念、しきたり」の項目に入ってしまったのかなと思います。</p>
<p>森委員</p>	<p>このアンケート結果は、納得という感じでした。男女共同参画で、動かしづらい社会通念とかには、まだまだ不平等感が高く、上からの制度として変えていけるような教育とか法律・制度はだいぶ平等感が増えてきているというのは、やはり、男女共同参画でいえば、過渡期であるからで、今後、活動を活発化</p>

<p>瀧委員</p>	<p>させることによって、男女平等が進んでいくんだろうと思います。</p>
<p>事務局（企画政策課副主監）</p>	<p>学校教育の平等感で、平等と感じていない人が意外に多いということに驚きました。どのへんが不平等なんでしょうか。</p>
<p>倉兼委員</p>	<p>これだけのアンケートではわかりかねますが、自由意見にも、学校関係はなかったように思います。わからないという回答を除けば、かなり高い比率で「平等」だと感じていると思います。</p>
<p>岡西委員</p>	<p>学校教育に関わる者として、どのへんが不平等なのかということですが、学校といいましても、幼稚園、小学校、大学、専門学校などさまざまなものがありますので、回答者がどのへんを想定するかによって、随分違ってくるのではないかという感想です。</p>
<p>岡西委員</p>	<p>今回、男女別だけでなく、年代別があつてとてもよくいろいろなことが見えてきました。20歳、30歳代では、家事とか育児は当たり前という部分がよくでていると思います。この10年間でかなり変わってきていることがわかりました。</p>
<p>洪谷委員</p>	<p>平成9年のアンケート結果と比較すると、全体的に数値の上では、現在の計画が生かされた結果、改善しているのだと思います。新しい計画では、アンケート結果の平等感の低い部分について、アプローチすべきだと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、次の項目に移りたいと思います。事務局説明をお願いします。</p>
<p>事務局（企画政策課副主監）</p>	<p>&lt;資料に基づき説明(アンケート調査概要 P22~P43)&gt;</p>
<p>岩田委員</p>	<p>家庭における家事分担で、40代、50代に妻の分担比率が高いというのは、仕事量や責任等あると思いますが、年齢ごとの考察があるといいなあと思いました。</p> <p>自由意見を年代別に並べ替えてみると、特徴がでると思いま</p>

事務局（企画政策課副主監）	<p>すが。</p> <p>年代別の並び替えはできると思います。検討したいと思いません。</p>
津田委員	<p>20代の家事分担、何を優先したいかという部分で、「食事のしたく」や「後片付け」、「買い物」が「夫婦」という比率が非常に高くなっています。また、問7の「仕事と家庭の両方を優先したい」という回答が増えている。家庭生活の分野で男女平等の傾向が見えてきている。あとは、社会がしくみを整備していく必要があるという、より現実的な課題になってきていると思いました。</p>
子安委員	<p>問10で、「男性自身の抵抗感をなくす」という選択肢がありますが、私自身の経験からすると、子どもの頃から、父親が厨房に立っていましたので、「男子厨房に入らず」というようなことは、誰が作ったのかと思います。意識等変えていけるものは変えていけばいいと思います。</p> <p>また、愛知県職員は60歳定年なんですけど、女性職員で途中でやめてしまうかたがみえます。子育て支援、介護支援制度がきちんとあれば、能力のある人は続けていけると思います。制度的なバックアップが必要だとつくづく思います。</p>
八木委員	<p>日本人は、文化・しきたりを重要視する国民性だと思います。戦後、男女平等ということで、日本の精神論を変えていこうという部分があるのかなと思います。若い世代の人たちは、高齢者が元気な時代なので、おじいちゃん、おばあちゃんが居て、働きやすい環境なのかなと思います。</p>
岡西委員	<p>問6の家庭における家事分担において、介護の分野でわからないと答えている比率が高いことに驚きました。介護に直面していないからだと思います。</p>
森委員	<p>P22の30代がどちらかという賛成という部分が多いというのは、この「家庭」という意味には、「育児」も含まれているんだなと思いました。実際、育児はP32に結果がありますが、「夫</p>

	<p>婦」という回答が 30 代には多いんですね。夫婦で分担しているにもかかわらず、育児の負担が大きいために、女性はいったん、家庭に戻らざるを得ないという現実があるのだと思いました。</p>
岩田委員	<p>イメージとしては、介護に携わっている人が増えている、逆に言えば、「わからない」という人が減ってきているのではないかと思います。過去のデータと比較するようなものはないのでしょうか。あればよかったですと思います。</p>
渋谷委員	<p>短大と 4 年制の大学で教えていますが、短大は教養、4 年制は保育士の免許を目指す課程ということで、全く学生の意識が違います。保育士の免許を目指す女子学生たちは、できるだけ仕事もしたいし、家庭も持ちたいと思っています。そういう人たちを応援する計画にしていきたいと思っています。また、P37 の地域活動への参加とありますが、暮らしやすいまちづくりという点では、男女共同参画に限らず、こういうことも考えて計画を作っていけたらと思います。</p>
亀垣委員	<p>年代別の女性の就業率と家事分担とのすり合わせを見てみたいと思ったのですが、データはありますか。</p>
事務局（企画政策課副主監）	<p>クロス集計すれば、できるかなと思いますが、はっきり申し上げられません。</p>
子安委員	<p>ウィークデーでも、一宮市ではテニス場で女性のかたたちがたくさんいるのを見かけます。一宮市は恵まれているんだなあという印象があります。</p>
津田委員	<p>P36、P37 で、もっと男女の差は開いていると思いました。女性は、子どもを持つと子ども会という地域活動に必然的に参加することになっているんですね。地域のことがよくわかっているのですが、男性は定年になって初めて地域に放り出されてしまう。就業時間が短くなれば、もっと男性も地域に参加できる機会が増えると思います。</p>
岡西委員	<p>P38 で今後、地域活動に参加したくないと答えている人が 4</p>

	<p>人に1人いるというのは、問題だと思いました。</p>
<p>岩田委員</p>	<p>P26の家事分担の「食事のしたく」の分野で、妻が高い数値なのですが、私どもの営業社員などは、惣菜を扱っている職種であるということもあり、家で料理するという話をよく聞くのですが、なかなか一般的には知識・経験がないと難しいのかなと思います。もっと、男性が料理教室のようなところに参加したり経験できる場ができたらいいいのかなと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、P43まで終わりました、P44から説明をお願いします。</p>
<p>事務局（企画政策課副主監）</p>	<p>&lt;資料に基づき説明（アンケート調査概要 P44～P47）&gt;</p>
<p>瀧委員</p>	<p>ここは、とても興味がある部分です。私自身、子どもを生むことになり、会社に制度はあったのですが、体力的な問題や職種の問題もあり、会社を辞めました。このアンケートの結果で、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがいい」というのは、よくわかります。理想としては、元の地位に戻ればいいと思いますが、実際、仕事を探してみますと、前職と同じ程度の仕事に就くことは難しいと思っています。今は、ずっと仕事を持ち続けるべきだと思っていますが、女性なりの悩みだと思いますので、いったん辞めた人でも、なんらかの形で、再就職できるように行政等で推進していただければいいなあと思います。</p>
<p>子安委員</p>	<p>女性が職業を持つことについて、個人的には、ずっと職業を持ち続けるべきだと思います。</p> <p>家族的経験から、配偶者が突然死してしまうことも考えられますので、絶対、女性は仕事を辞めないほうがいいと思います。再就職が難しいのは、日本人は農耕民族としての「継続は力なり」という意識が社会にしみ込んでるからだろうと思います。欧米は、狩猟民族の発想がありますので、違うんですね。個人的にも、立場上でも、女性は職業を続けるべきだと思つづく思います。</p>

八木委員	<p>問 11 ですが、「職業を持ち続けるほうがよい」「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」は合わせて、「職業をもつほうがいい」という結果だと思います。また、平成 9 年と比べますと、経済がきびしいということもあり、女性に働いてほしいというのが出ていると思います。</p>
岡西委員	<p>私の娘も看護師をしまして、夜遅くなることもあり、子どもをどうするんだという時があります。そこで、私おばあちゃんが登場することになるのですが、社会的にも、そういうケースがたくさんあると思います。人間関係であったり、社会であったり、保育の環境を整える必要があると思います。重要なのは人間関係で、やめなくてもいい人がやめている現実があると思いますので、そうならないように、社会の中で女性が活躍するシステムを作っていただきたいと思います。</p>
岩田委員	<p>私は、新卒の面接をしたりしますが、よくある質問で「結婚しても続けられますか」と最近、よく聞かれます。反対に、こちらから、「結婚しても本当に続けていただけますか」と聞きますが、おそらく、就職活動している時は、そう考えていると思いますが、ご家族や配偶者の関係から辞められているのが多いように思います。いったん、仕事を辞められますと、ブランクが空くなど、戻るのが難しいのかなと思います。長く続けていただくには、育児休職制度をしっかりと活用していただいたり、家族の理解を得ることがポイントだと思います。</p>
津田委員	<p>私も大学で教えておりますが、女子学生は条件があえば働きたいという気持ちは、男性に少しも負けていません。P44 のところで、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがいい」という選択肢があるわけですが、育児も介護も夫婦が同じ責任を持つべきであり、女性の責任と考えることが問題だと思います。また、現在、男性が女性に働いてほしいという希望が増えているように思います。</p>
八木委員	<p>P46 の 50%が男性優位な組織運営ということが、女性参画が進んでいない理由に挙げられていますが、システムから変えていくということで、行政としても取り組みがなされているという</p>

	<p>ことでいいと思います。ただ、ひとつ、企画政策課長に言いたいです。行政の事務局としても、女性のかたを2人、3人と増やす必要があるのではないのでしょうか。</p>
<p>渋谷委員</p>	<p>P46の女性の参画が進んでいない理由に、「女性の活動を支援するネットワークの不足」とあります。前回お願いした働く婦人の家の事業の内容を見ますと、文化的な講座が多くて、少し残念でしたが、女性のネットワークを作っていくような講座があれば、行政としての支援としていい方法になると思います。</p>
<p>八木委員</p>	<p>実は、働く婦人の家で、男性が入れない講座があるんですね。それは、反対に男女平等ではないですね。</p>
<p>渋谷委員</p>	<p>一般的な講座であれば、男性が入れない制限は必要ないと思いますが。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、次の項目について説明をお願いします。</p>
<p>事務局（企画政策課副主監）</p>	<p>&lt;資料に基づき説明（アンケート調査概要 P48～P53）&gt;</p>
<p>森委員</p>	<p>「相談窓口を知っている」と答えた人が多いのに驚きました。私がこの質問で考えた時でも思い浮かばなかったのが現実です。</p> <p>相談窓口の情報がもっとわかるような形になっているといいなあと思いました。</p>
<p>子安委員</p>	<p>DVに関して、立場上、県のDVの協議会に出たり、民間のシェルターに保健師を女性相談センターへ派遣したりしていますが、DVについては、性的・精神的まで含めると、非常に実態としての被害が表面化していないと言われています。</p> <p>シェルターに逃げてくるような人は、家庭の中で長年こらえて来るわけですが、一般的に考えられている以上に深刻な被害があると民間シェルターのかたは言われます。DVの問題については、行政もそうですが、もっと声をあげていかなければならないと思います。</p>

八木委員	<p>一宮市の場合は、子育て支援課という課がありまして、子どもを含めて相談に見えますが、話を聞いてみますと、それはDVですよと本人が気づいていない場合があります。</p> <p>どこまでがDVでどこまでがDVでないかわからず、相談に来て、民間のシェルターに行かれるというケースをまのあたりにしたこともあります。そのあたりの認知度アップを図っていったほうがいいのではないかとということと、セクシュアルハラスメントですね。実は、女性だけにかかわらず、男性が受ける場合があります、現代的な問題だと思っています。</p>
渋谷委員	<p>ちょうどDVの防止月間なんですけど、私が関わっている名古屋市の男女共同参画センターでもさまざまな取り組みをしております。確かに、被害に遭われるかたを救出するという面で、以前と比べると充実していると思います。今後、重要になってくるのは、お子さんへの配慮、若い世代への予防の意味での啓発、逃げられたかたの生活体験などだと思いますが、今年のセンターの事業としても並びましたので、この場でご紹介します。</p>
津田委員	<p>DVの内容やどのようなことが行われているのかという認識の問題が遅れていると思います。内容自体をまとめたようなデータはないのですか。そういったものを公表すれば、一般的な認識も変わってくると思いますが。</p>
子安委員	<p>なんらかのデータはあり、公表されていると思います。</p>
渋谷委員	<p>男女共同参画センターのホームページからも閲覧できると思います。</p>
子安委員	<p>結局、経済的に男性に支配されているので、逃げられないというケースだと思います。ですから、そういう意味でも、個人的には、女性は仕事を持ち続けていただきたい。</p>
会長	<p>それでは、最後の分野について、説明願います。</p>
事務局（企画政	<p>&lt;資料に基づき説明(アンケート調査概要 P54～P58)&gt;</p>

策課副主監)	
木村委員	<p>P54 の認知度ですが、全国的なものについては認知度が高いのですが、市の活動に関する分野で認知度が低いと思いますので、周知徹底を図って、認知度を高めていただきたいと思います。</p>
八木委員	<p>P57 からわかりますのは、男女共同参画社会というのは、「仕事」ですね。仕事をするために、行政に求める部分が多いのかなと思います。</p>
子安委員	<p>「仕事」というよりは、女性が経済的に自立できるように支えることがすべての担保になるということです。いろいろなケースがありますが、女性にとって、仕事を続けられることを担保する職場といいますか、いろいろな相対的な条件がありますが。</p> <p>以前、豊田市にいた時には、トヨタ自動車本体もそうですが、M字カーブが非常に極端な市なんですね。それはどうしてかというと、会社が2直、3直体制で、なかなか旦那さんが体力的にも厳しい環境にあり、ただし、給料が高いということもあり、専業主婦でないといけないという構造のようです。</p> <p>どの地域で、どういう仕事で、どういう家庭生活を営んでいるかということがあると思います。</p>
渋谷委員	<p>P55 の用語の認知度で 20 歳代が非常に高くなっているのは、学校教育等でそれらを取りあげているということになるのでしょうか。</p>
倉兼委員	<p>私は小学校ですが、学校教育の場で、男女共同参画について、声高に言っているということはありません。性差と男女差別は違いますので、人権という面で、心の健康ということで、系統だてて指導しており、それが中学校・高校と続いていくわけです。意識としては、最近、若い先生がたも増えておりますので、そういう意識で育てているということがあるかもしれません。</p> <p>P35 で、「仕事と家庭生活をともに優先している」というのは確かに増えていますが、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活の</p>

	<p>三つとも大切にしている」という割合も増えているんですね。学校の教育によるところが大きいかもかもしれませんが、地域の中だとか、さまざまな関わりかたをしているので、そういう意識のかたが多くなってくれば、若い人たちも意識が高くなってきているのではないかと思います。</p>
子安委員	<p>学校で男女混合名簿の実施率というのは、前回やったのかもかもしれませんが、わかりますか。</p>
倉兼委員	<p>割合は、すぐに言えませんが、混合名簿を採用しているところもありますし、学年で分けている場合もありますし、保健の場合等で男女別を採用しているなど、使いわけていると思います。</p>
八木委員	<p>学校単位でまかされている部分だと思います。</p>
事務局(次長)	<p>前回の実績報告で報告させていただきましたが、小学校が 6 校、中学校が 0、「女子が先続いて男子」が小学校 0、中学校 1、「男子が先続いて女子」が小学校 16、中学校 8、学年によって男女が入れ替わるが多くて、小学校 20、中学校 10 です。</p>
岩田委員	<p>男女共同参画は意識の問題が非常に大きいと思いますが、なかなか社内でも伝わらない部分がございます、この混合名簿もそうなんです、行政のほうで、事例をもっと目にとまるような形で啓蒙していくと変わってくるのかなと思います。</p>
会長	<p><b>議題②市民ワークショップについて</b></p> <p>貴重なご意見を多数ありがとうございます。今日、いただきましたご意見を新しい計画の中に取り入れていきたいと思いません。</p> <p>自由意見のほうは、よかったですか。あとでまた、ゆっくりご覧いただきたいと思いません。</p> <p>では次に、議題②市民ワークショップについて、事務局より説明願います。</p>
事務局(企画政)	<p>&lt;資料 2 に基づき説明&gt;</p>

策課主査)	
会長	ご意見・ご質問等ございましたら、いただきたいと思います。
八木委員	「6 全体のまとめ」で参加者に感想を聞くのはわかりますが、参加者に対して、決意という責任をもたせるのですか。
事務局	強制ではなく、時間があればお聞きするという意味合いでございます。
会長	<p><b>議題③起草部会について</b></p> <p>基本的には、原案の形をお願いしたいと思います。</p> <p>では次に、議題③起草部会について、事務局より説明願います。</p>
事務局（企画政策課長）	<p>議題③起草部会について説明させていただきます。資料 3 の策定スケジュールをご覧ください。前回の会議でも説明しましたとおり、新しい計画の素案策定につきましては、懇話会設置要綱第 4 条により、懇話会の委員の中から起草部会を立ち上げて検討していただきたいと考えております。起草部会は、4 名の委員の方で構成し、会議は、来年の 1 月頃から 7 月頃までの 5 回程度を予定しております。市側で立ち上げます推進会議の作業部会と一緒に素案を検討していきたいと思います。現計画の状況、国や県の動向、他都市の状況・情報などさまざまな分野から情報を集めまして、分析しながら、検討を進めることとなりますので、事務局としましては、学識経験の委員さんを中心にお願いしたいと考えております。</p>
会長	<p>ただいま、事務局から策定スケジュールに従いまして、起草部会を設置し、進めていきたいということでしたが、そんな形でよろしいでしょうか。</p> <p>起草部会のメンバーですが、どなたかいらっしゃいますか。</p>
八木委員	事務局から提案がございました学識経験者のかたでお願いしたいと思いますがどうでしょうか。

